

具島兼三郎 ぐしま けんさぶろう 国際政治学者、法學博士。明治二十八年十一月五日福岡縣生れ（九〇五一）。昭和二年九州帝國大學法文學部卒。同志社大學法學部助教を経て、十一年南滿洲鐵道株式會社調査部に入る。十七年の獨逸に二國軍顧問として反對の論議を張り、關東軍憲兵隊に拘禁、終戦時まで入獄。戦後『讀賣新聞』論説委員、九州大學法學部教授、産業労働研究所所長、長崎大學學長等歴任。

著書に、『戦う平和論者』（昭和二十二年八月、二十五日京都・大雅堂）、『フアンシズム』（昭和二十四年四月五日岩波書店「岩波新書」）、『激變するアジア』（昭和二十八年二月、二十日岩波書店「岩波新書」）、『現代の植民地主義』（昭和二十二年七月十七日岩波書店「岩波新書」）、『現代の國際政治』（昭和四十年五月、二十九日岩波書店）、『反安保の論理』（昭和四十四年十一月、二十日二書房「二一新書」）、『どん底のたたかひ』のたしの満鉄時代』（昭和五十五年八月十五日福岡・九州大學出版会）、『文明への脱皮—明治初期日本の寸描』（昭和五十八年九月、二十日福岡・九州大學出版会）、『全面核戦争と広島』（長崎）（昭和五十九年七月五日岩波書店「岩波ブックスレット」）等。



**具島兼三郎 文明への脱皮** 明治初期日本の寸描

具島兼三郎 **どん底のたたかひ** わたしの満鉄時代

九州大學出版会

●日中戦争当時、滿鉄調査部にいた著者は、軍が進めようとしていた日独伊三國同盟に強く反対する。日ソ戦争の見通しについても陸軍の意見と異なり結末を「好ましからざる人物」として関東軍憲兵隊に逮捕される——三年間の獄中生活。八年のどん底にあって「歴史の幕引、を信じて耐える、精神力の闘い。」